

グループの力を生かした主体育成と相乗効果

～ 研究 授 業 を 通 じ て ～

あいあいネットワーク of HRS (<http://aiainet-hrs.jp>)

深美隆司

1. はじめの言葉
2. 授業者より（質問等は、各グループをまわってもらっているときにお願いします）
3. グループの中で、ファシリテータ・プレゼンテータ選出

4. ファシリテータによる構築

テーマ) グループによる活動で生み出されるもの

ポイント：
自分自身へのプラスにする
という観点で・・・

プレゼンテータは準備を

プラスの気づき	積みあげへの提案
気づきの収束	積みあげの収束

5. プレゼンテータより各グループからのプレゼンテーション
6. 授業者へのメッセージ

7. 深美より

- * グループの力
- * 学びのジャンプ 相乗効果
- * 時代が必要とする力

8. 終わりの言葉

* 深美への感想や質問は・・・

バーコードリーダー付
の携帯をお持ちの方



あいあいネットワーク of HRS
携帯 ブログURL
コメントをお願いします。

ネット機能の付いている
携帯をお持ちの方

あいあい 深美 潮江中学

* スマートフォンは
検索から入って下さい

ネット機能が付いていない
または携帯を
お持ちでない方

コミュニケーションカードに
ご記入ください

遅くとも明日までには
ブログにアップいたします。

1. 国際情勢や社会の変化をしっかりとつかむ

資料)「成長社会」から「成熟社会」への転換

	国際情勢	国内情勢	教育情勢
1979			林賢一君自殺 校内暴力
1981		中国残留日本人肉親捜し	
1986		バブル絶頂期	鹿川裕史君自殺 第一波
1989	ベルリンの壁崩壊 子どもの権利条約		
1991	ソ連崩壊		
1992	EU発足		
1993		55年体制崩壊	
1994		バブル崩壊への自覚	大河内清輝君自殺 第二波
1995	人権教育のための国連10年	阪神淡路大震災 オウム真理教事件終結 Windows95 発売 携帯電話普及	グループ・アプローチの誕生 松原七中地域フェスタ
1996			松原二中労働体験学習
1997	京都議定書	介護保険法成立	酒鬼薔薇聖斗事件
1998		自殺者3万人突破	トライやるウィーク 不登校12万人突破
2000		西鉄バスジャック事件(17歳の)	*1991年の2倍
2001			不登校13万9千人
2002	日韓ワールドカップ	地域改善対策事業終了	「総合的な学習の時間」開始
2003			松原七中研究開発
2004		改正労働者派遣法成立	
2006		*二極化の進行	いじめによる自殺頻発
	グローバリズムの広がり		ガイダンスカリキュラムの成立
2008	リーマンショック	派遣切り 秋葉原事件	暴力件数、中学校4万件突破
2009		スマートフォン発売 ひきこもり70万 予備軍155万	虐待4万4千件突破
2011	アフリカの民衆革命	東日本大震災・原発事故	生活保護200万人突破

グループアプローチ

- 1967 構成的グループエンカウンター
- 1970 アサーティブネス Your Perfect Rights アルベッティ&エモンズ
後に平木典子氏により導入
- 1985 グループワークトレーニング
- 1995 プロジェクトアドベンチャー
- 1997 ライフスキル教育
- 1997 ストレス・マネジメント教育
- 1999 ソーシャルスキル教育
- 2000 ピア・サポート

ガイダンスカリキュラム

-
- 2005 松原第七中学校プログラム
さいたま市HRTプログラム
 - 2006 体系的指導プログラム(いきいきちばっ子プラン)
社会性を育てるスキル教育(埼玉県上尾西中校区)
 - 2007 子どもの社会的スキル横浜プログラム
 - 2009 高知あったかプログラム

グループアプローチの数々

ベーシックエンカウンター
 ニューカウンセリング
 ピア・サポート・プログラム
 セルフアサーショントレーニング
 フィークスプログラム
 学校文化作り
 ネイチャーゲーム
 VLF思いやり育成プログラム
 E R I C 国際理解教育プログラム
 アンガーマネジメントプログラム

構成的グループ・エンカウンター
 学校グループワークトレーニング
 ソーシャルスキルトレーニング
 対人関係ゲーム・プログラム
 ストレスマネジメント教育プログラム
 プロジェクトアドベンチャー
 ライフスキル教育プログラム
 多様性トレーニング
 ユニセフ開発教育プログラム

2. 参加体験型学習のひろがり 解放教育 2010年12月号で特集します。

・人権教育からのアプローチ	・心理カウンセリングからのアプローチ
人権教育のための国連10年 開発教育・国際理解教育の観点から 共生と自己実現のために 地域における人権文化の構築 「総合的な学習の時間」での展開 出会い生き方学習(仮) 出会いから学びへ、 自己構築 プレゼンテーション 体験学習(ガイドヘルプ実習 職場体験等) * 多様性トレーニング * E I U P 国際理解教育プログラム * ユニセフ開発教育プログラム 参加体験型の重要性が 人権教育第三次とりまとめに	三次支援としての「治す」カウンセリング 一次支援としての「育てる」カウンセリング 主体形成のためのカウンセリング的手法 (出会いと気づき) * 構成的グループエンカウンター (ロールプレイング) * アサーショントレーニング * ソーシャルスキルトレーニング (グループダイナミズム) * グループワークトレーニング * プロジェクトアドベンチャー ・・・・ファシリテーションにより遂行 自己認知 生徒指導の概念のコアに 「開発的」 生徒指導提要に
・医学的生理学的アプローチ = * ストレス・マネジメント教育 * ライフスキル教育	

「高度情報化と二極化が進む 成熟社会」の中では、

枠組みがなくても立てる力
 自分の中にビジョンを持つ力
 社会の中に枠組みをつくりだす力 が必要

それは、アサーティブネスが必要とされる時代

自己をつくり出す (自己信頼、自己管理)
 相手を信頼して、相手に信頼される (共感性)
 Win & Win (相乗効果)

つまり、「アサーティブネスにもとづいた人間関係づくり」が必要となる

＞ ファシリテーション(主体形成)型教育

手法は「子ども支援」

3. 松原七中の「人間関係学科」と「出会い生き方学習」

	・ 出会い生き方学習	・ 人間関係学科
1 年生	「いのちを守る」 子どもの人権、セーフティーネット (渡日、医療、消防、福祉等) 「地域でともに生きる」 共生の課題 (渡日、環境、障がい者福祉、高齢者福祉等)	基礎的コミュニケーション力 (テーマ性) 他者理解 (日常性) ストレスマネジメント (テーマ性) アサーショントレーニング (日常性) ルールづくり (テーマ性)
2 年生	「ともに生きる社会をつくる」 共生の課題 (多文化共生、部落問題、バリアフリー、 ESD、男女共生等) 「社会のしくみやしごとを学ぶ」 自己実現の課題 (グループ別学習、職場体験) 「自分の生き方を考える」	発展的コミュニケーション力 (テーマ性) メデュエーション (テーマ性) ソーシャルスキル (クロス性) 感情対処 (クロス性) 自己肯定感 (日常性)
3 年生	「地域を越えて人とつながる」 共生と自己実現の課題 (平和、多文化共生、伝統文化等) 「じぶんの生き方を実現する」 共生と自己実現の課題 (保育体験、職業調査等) 「ライフコースを選択する」 * 宿泊の取組ではクラスミーティング	メデュエーション (クロス性) 境界設定 (テーマ性) ソーシャルスキル (クロス性) リフレーミング (クロス性) 時間管理 (クロス性) 自己肯定感 (日常性) * 自己開示 (日常性) は毎年学期毎に

1) 人間関係学科のコア

認知 **行動** **評価** のスパイラル

2) 人間関係学科のカリキュラムの3要素

日常性 **テーマ性** **クロス性**

3) 人間関係学科の3つの学び

ソーシャルスキル
出会いと気づきの力
アサーティブな人間関係調整力 + 人間力

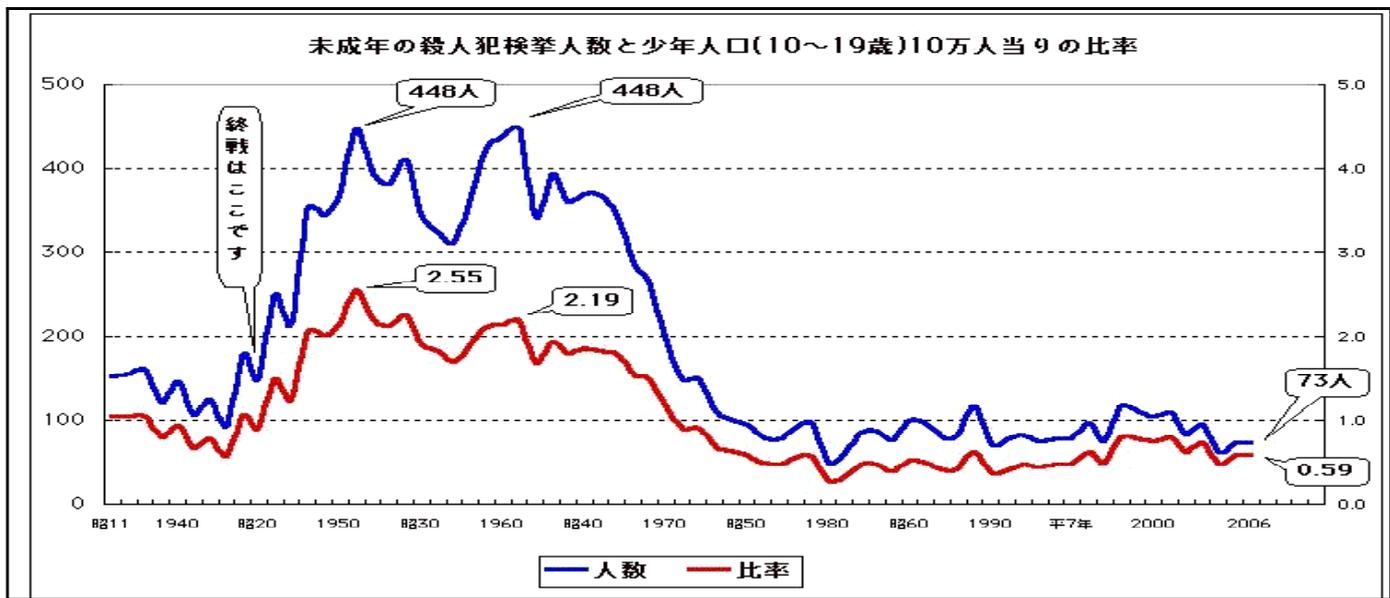
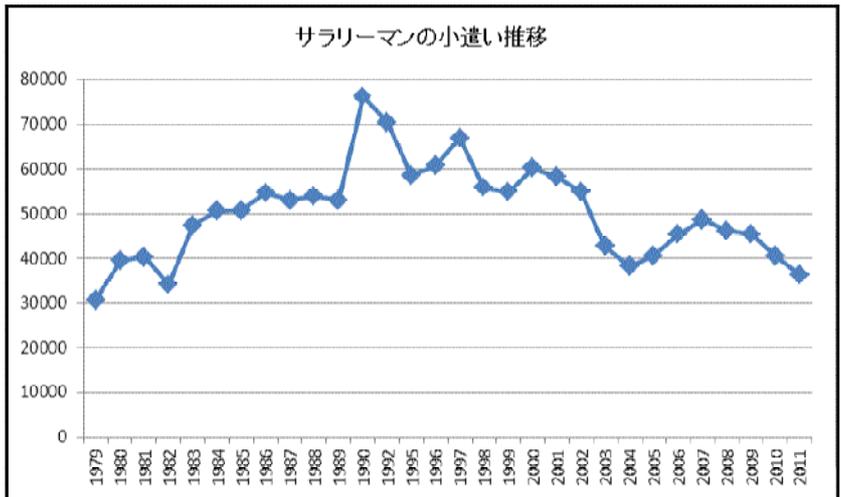
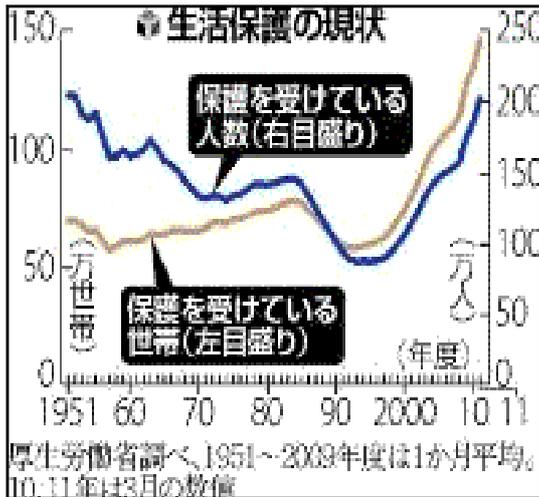
4) 人間関係学科の目的

依存的なあり様から主体的なあり様へ

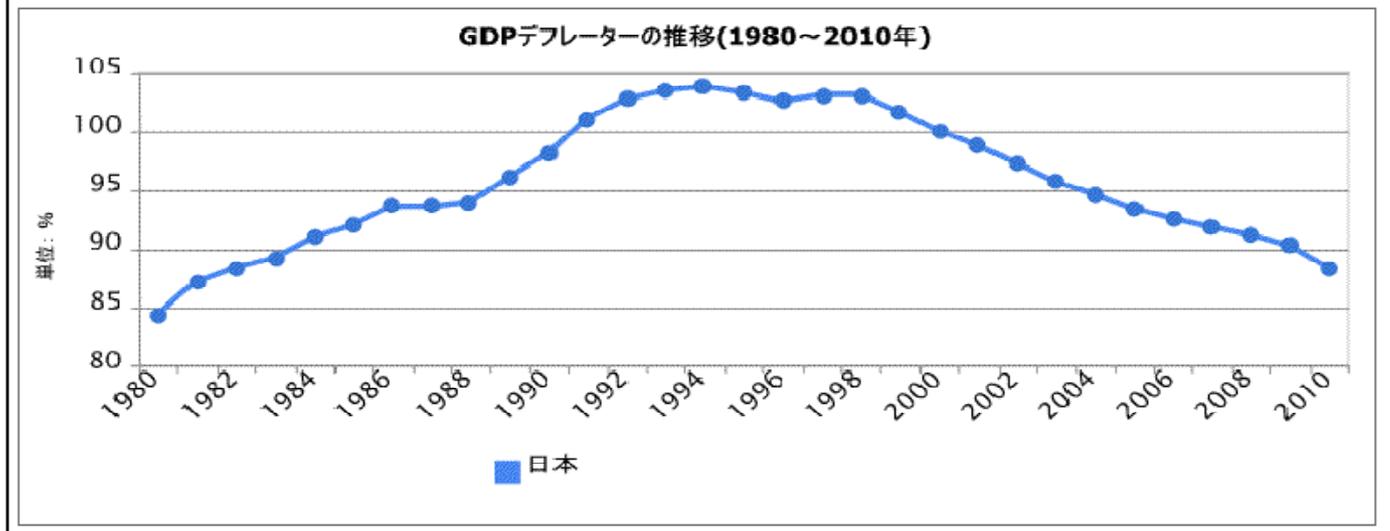
5) 出会い生き方学習のスパイラル

基礎学習 **選択** **出会いと気づき** **共有化** **プレゼンテーション**
 のスパイラル

グラフ資料

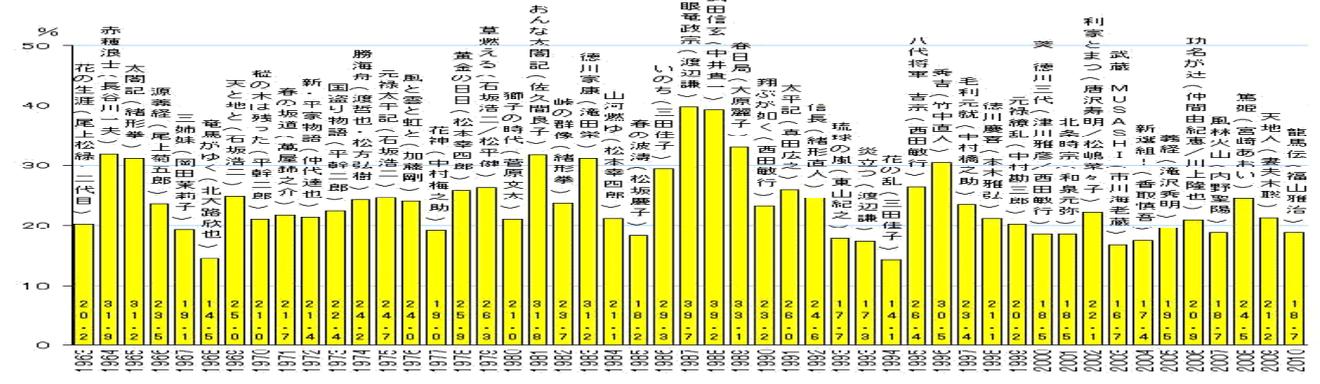


・ GDPデフレーター = 名目GDP / 実質GDP。推移がプラスならインフレ、マイナスならデフレ傾向にあると見ることが出来る。



NHK大河ドラマの平均視聴率推移

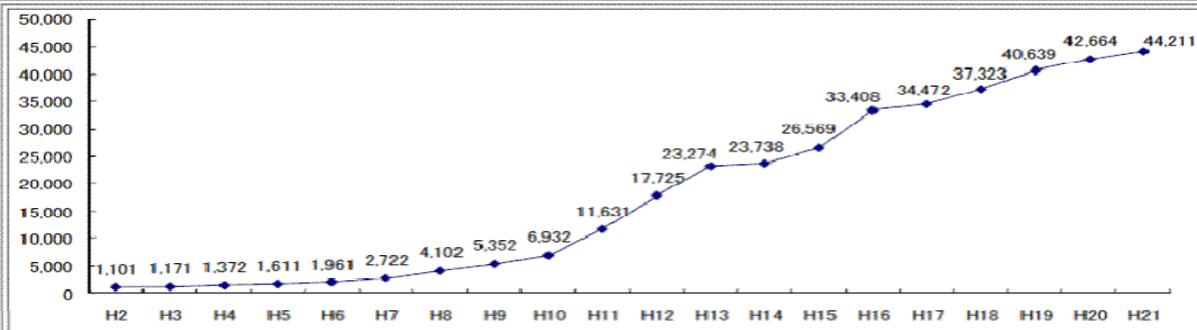
*カッコ内は主演俳優



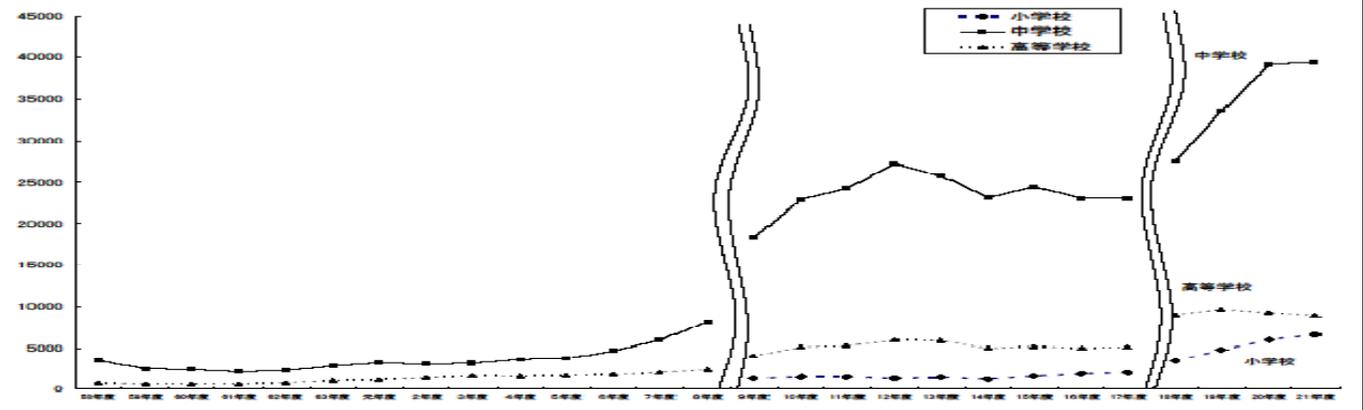
(注)ビデオリサーチ(関東地方)による。
 (資料)東京新聞2006.12.24ほか

児童虐待相談の対応件数

○ 全国の児童相談所における児童虐待に関する相談件数は、児童虐待防止法施行前の平成11年度に比べ、平成21年度においては3.8倍に増加。



(参考1)学校内における暴力行為発生件数の推移



全児童、生徒数に占める「不登校」の比率

